

ピアニスト
Hiroko(水上裕子)

感動の その一歩先へ



みなかみ・ひろこ
武蔵野音楽大学卒業後、オーストラリアでデビュー。その後、ロシアで研鑽を積み、東京・ロシアに渡る。1996年に帰国し、日本デビュー。「クラシック名曲」ともよめる喜びから湧き出る「オリジナル曲」に、自身の「体験ストーリー」を交えて語るコンサートは、すでに400回を超え、多くのファンを惹きつけている。

世界の平和とすべての人びとの幸せを願い
祈りを込めたピアノ演奏は
国や民族を超えて感動を生みだす。

生命の永遠性を 伝える音楽

音楽家としての一番のテーマは、生死の苦悩を取り去りたいということだ。

「再会」という曲があります。お子さんをしてしまったお母さんのために作った曲です。彼女との最初の出会いは、あるコンサートの三日前のことでした。お電話をくださったリ、コンサートのために寄付をしたいというのです。

自殺し、財布のなかに三万円が残されていたそうです。そのお金を自分で使うのもつらいし、とっておくのもつらい。そこで、「息子は音楽が好きだったから、コンサートのために使ってください」ということでした。

この話をきっかけに作ったのが「再会」です。息子の自殺は悲しい出来事ですが、彼のことを思うと、なぜか明るい曲調が浮かんでくるんです。そのとき、「お母さんが祈っているから、この曲ができたんだ」と思いました。母の祈りというのは宇宙大に響き、亡くなった彼のものにも届いているんだ、と。

以来、「再会」はコンサートで必ず演奏しています。お客さまは、ご両親や親しい人の死、またはかわいがっていたペットの死など、自分の経験と重ね合わせて聴いてくれるようです。そして、「心は生きてるんじゃないかと思った」「生命は永遠だと感じた」といった感想を寄せてくれます。

音楽は、言葉以上に思いを届けられるものだと思います。逆り手である私がお客さまが、そしてお客さま同士が、感動を共有できるような、そんな音楽会を目指していきたいと思っています。

後半から1時まで、休憩もとらずに弾き続けました。最後に、「津波の被害は想像以上だと聞きました。大変だと思いますが、皆さんの幸せを祈っています。日本に帰っても皆さんつながっています」と語り、「再会」を演奏しました。

マレーシアは多民族国家です。会場にはターバンを巻いたイスラムの方もいました。それでも、音楽をとおして思いを一つにしてくださり、総立ちになって拍手を送ってくださっていました。

終了後、現地の若者からインタビューを受けたのですが、彼らは

大津波の被災者へ 祈りを込めた夜

昨年一月、マレーシアのクアラ

故国を思う人に 捧げた曲

「再会」とともに、私が大切にしている曲に「異国の河」があります。これは、政治的問題や戦争などによって故国に帰れない人たちに捧げた曲です。

私が演奏会を目指したきっかけは、中国残留孤婦人のドキュメンタリー番組を見たことでした。中国での暮らしが長くなり、すでに日本語を忘れていた彼女たちです



スマトラ沖大津波。悲しみの場面 (AFP-時事)

ルンパールで演奏会を行いました。スマトラ沖の大津波が起きた直後のことでした。「延期したほうがいいのでは」と尋ねると、「もういいからだからこそ、みんなHirokoさんを持っていきます」というのです。そこで、大津波の救援コンサートとして開催することにしました。

うれしいことに、会場は千二百人のお客さままで満員でしたが、ステージが必要以上に広く、ピアノは湿気でペドレト。条件はよくありませんでした。それでも、思いを込めて全力で演奏しました。お客さまも喜んでくださり、夜の七

時半から1時まで、休憩もとらずに弾き続けました。最後に、「津波の被害は想像以上だと聞きました。大変だと思いますが、皆さんの幸せを祈っています。日本に帰っても皆さんつながっています」と語り、「再会」を演奏しました。

マレーシアは多民族国家です。会場にはターバンを巻いたイスラムの方もいました。それでも、音楽をとおして思いを一つにしてくださり、総立ちになって拍手を送ってくださっていました。

終了後、現地の若者からインタビューを受けたのですが、彼らは

それを聞いて、本当にやっつけました。私にとって、も心に残る感動の一夜でした。

「再会」とともに、私が大切にしている曲に「異国の河」があります。これは、政治的問題や戦争などによって故国に帰れない人たちに捧げた曲です。

私が演奏会を目指したきっかけは、中国残留孤婦人のドキュメンタリー番組を見たことでした。中国での暮らしが長くなり、すでに日本語を忘れていた彼女たちです



★6月17日全国東映系ロードショー映画「バルトの楽園」関連書籍

「第九」の日本初演奏。そこには国境を超えた人間ドラマがあった

バルトの楽園

・苗木 宙求

今から約90年前、徳島県の東洋製紙所、捕鯊のドイラン人々と日本人との間に、人種・国境を超えた真実の友情が芽生えた。映画「バルトの楽園」脚本家自身による渾身のペーパー。★映画名場面カラー写真を多数収録

史実にもとづいた感動小説！
ハンスの林檎
村上政彦 ●定価1470円(税別)
ドイツ人植民の文化による「戦い」を描く。

http://www.usio.co.jp 潮出版社
〒102-8110 東京都千代田区飯田町3-1-3
TEL.03(3230)0741/FAX.03(3230)1332